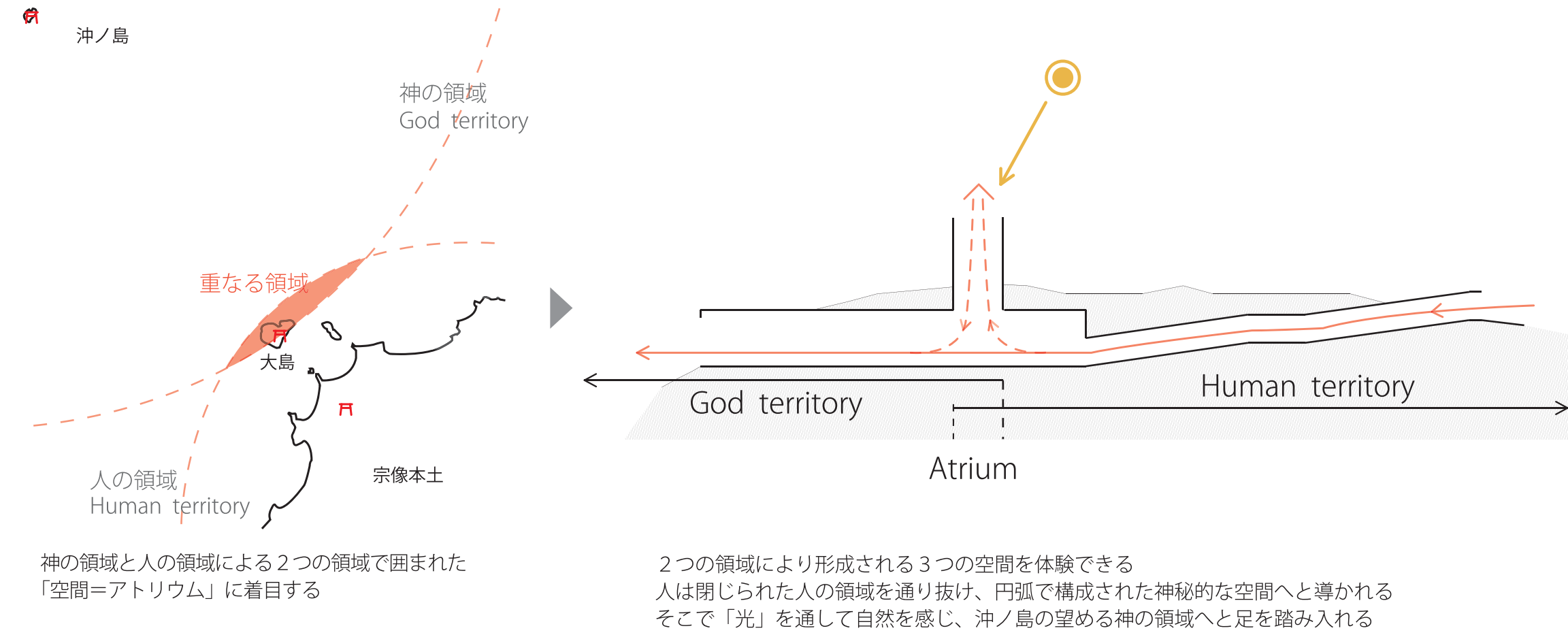


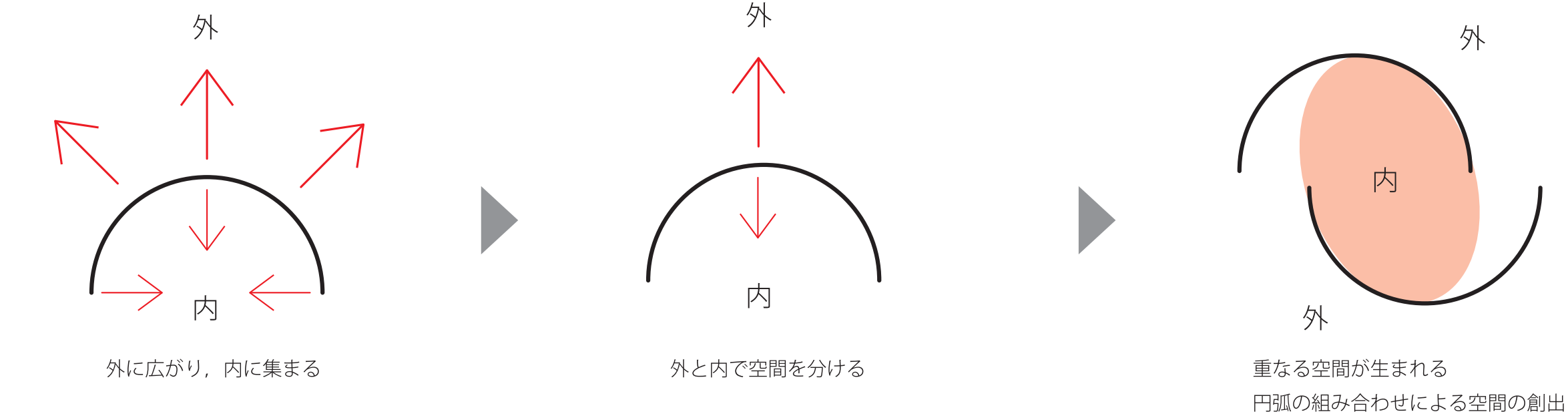
Atrium × Atrium

宗像市大島には、神と人、2つの領域に囲まれた領域(アトリウム)が存在する
 この2つの領域により形成される3つの空間を円弧で構成された資料館として提案する
 それは、資料展示スペースである人の空間、神の島を望むギャラリーである神の空間、
 そして自然を感じる光のアトリウム空間である

Concept



Diagram



Background

宗像大社

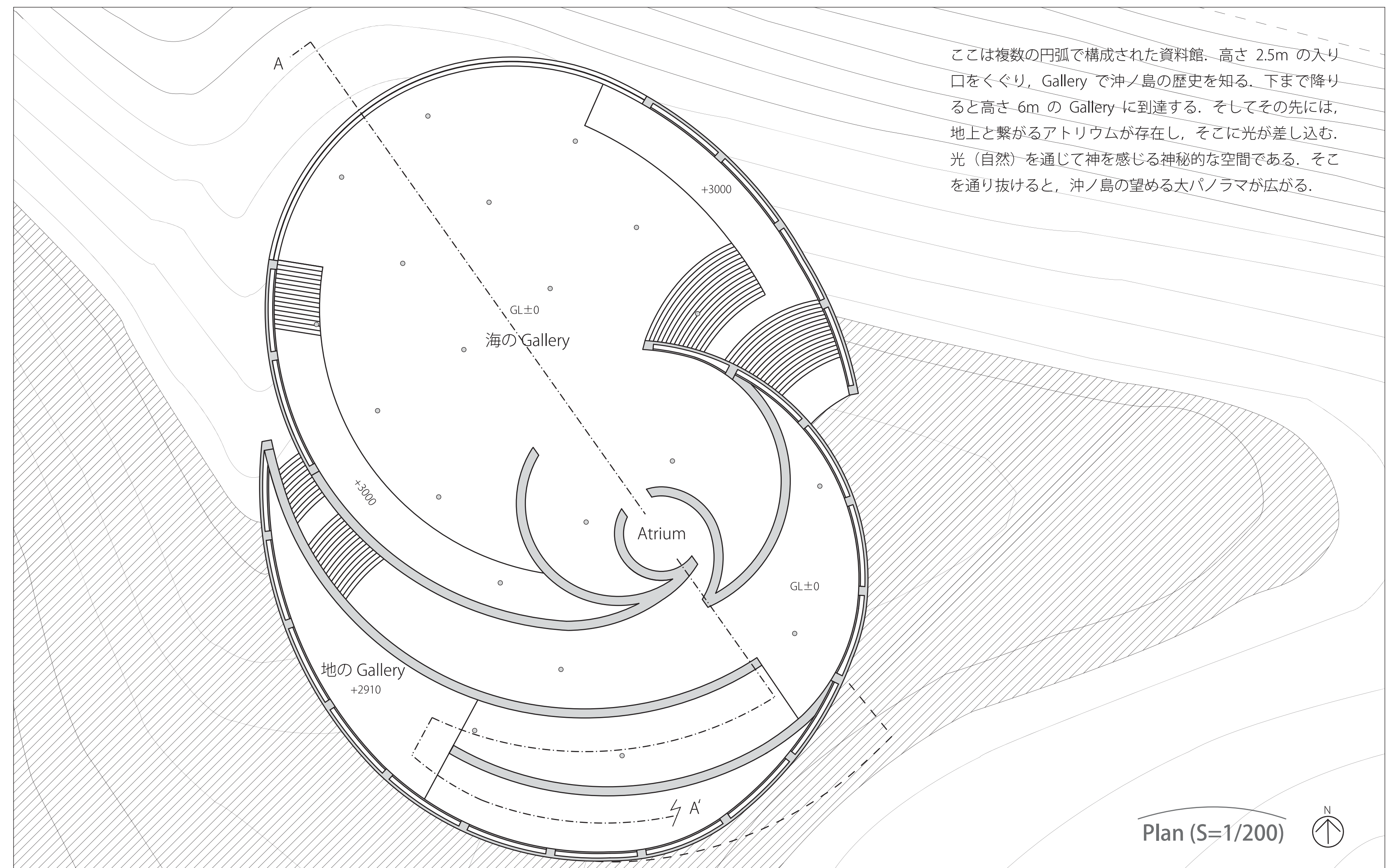
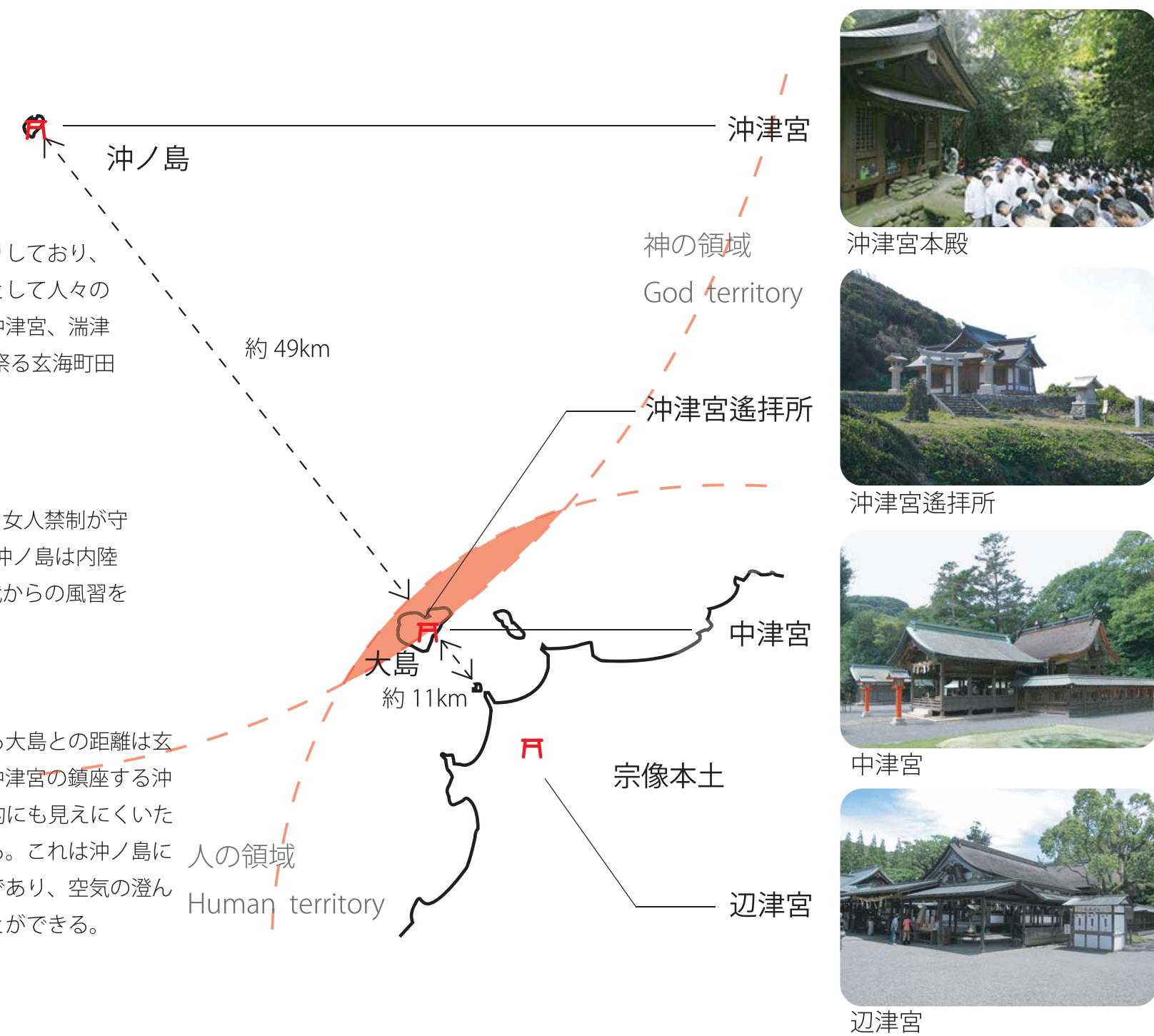
古来より、天照大神の三柱の御子神をおまつりしており、海上交通の安全をはじめ全ての道を守る神様として人々の崇敬を集めてきた。田心姫神を祭る沖ノ島の沖津宮、湍津姫神を祭る筑前大島の中津宮、市杵島姫神を祭る玄海町田島の辺津宮の三宮を総称して宗像大社という。

沖ノ島

全島が史跡・天然記念物となっており、現在も女人禁制が守られている。「おいわず様」とも呼ばれるほど沖ノ島は内陸部の生活とは乖離した孤島であり、今でも古代からの風習をそのまま守り続けている神の島である。

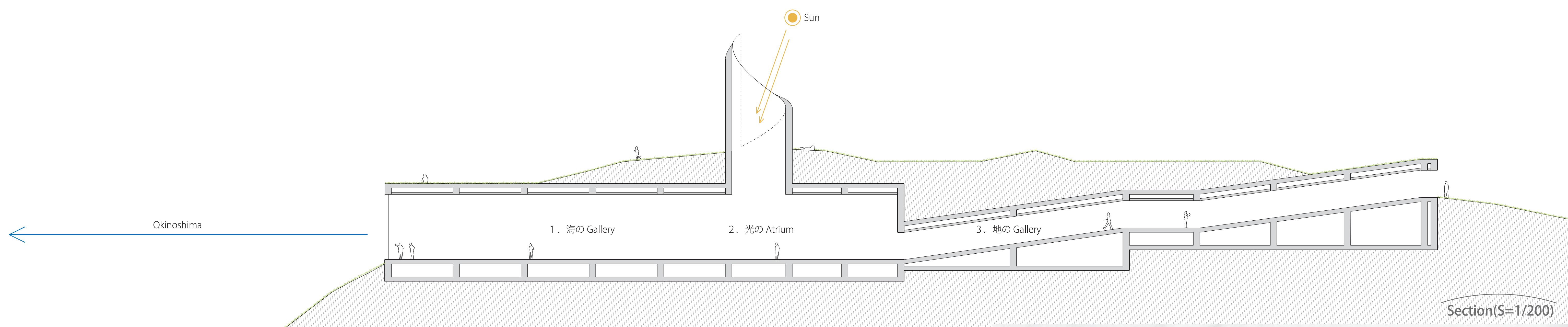
沖津宮遙拝所

辺津宮の鎮座する宗像本土と中津宮の鎮座する大島との距離は玄界灘を隔て約11kmであるのに対し、大島と沖津宮の鎮座する沖ノ島との距離は約4倍以上の差があり、視覚的にも見えにくいいため、大島の北部の岩瀬には沖津宮遙拝所がある。これは沖ノ島にある沖津宮を大島内から礼拝するための施設であり、空気の澄んだ日に限り、はるか水平線に沖ノ島を望むことができる。

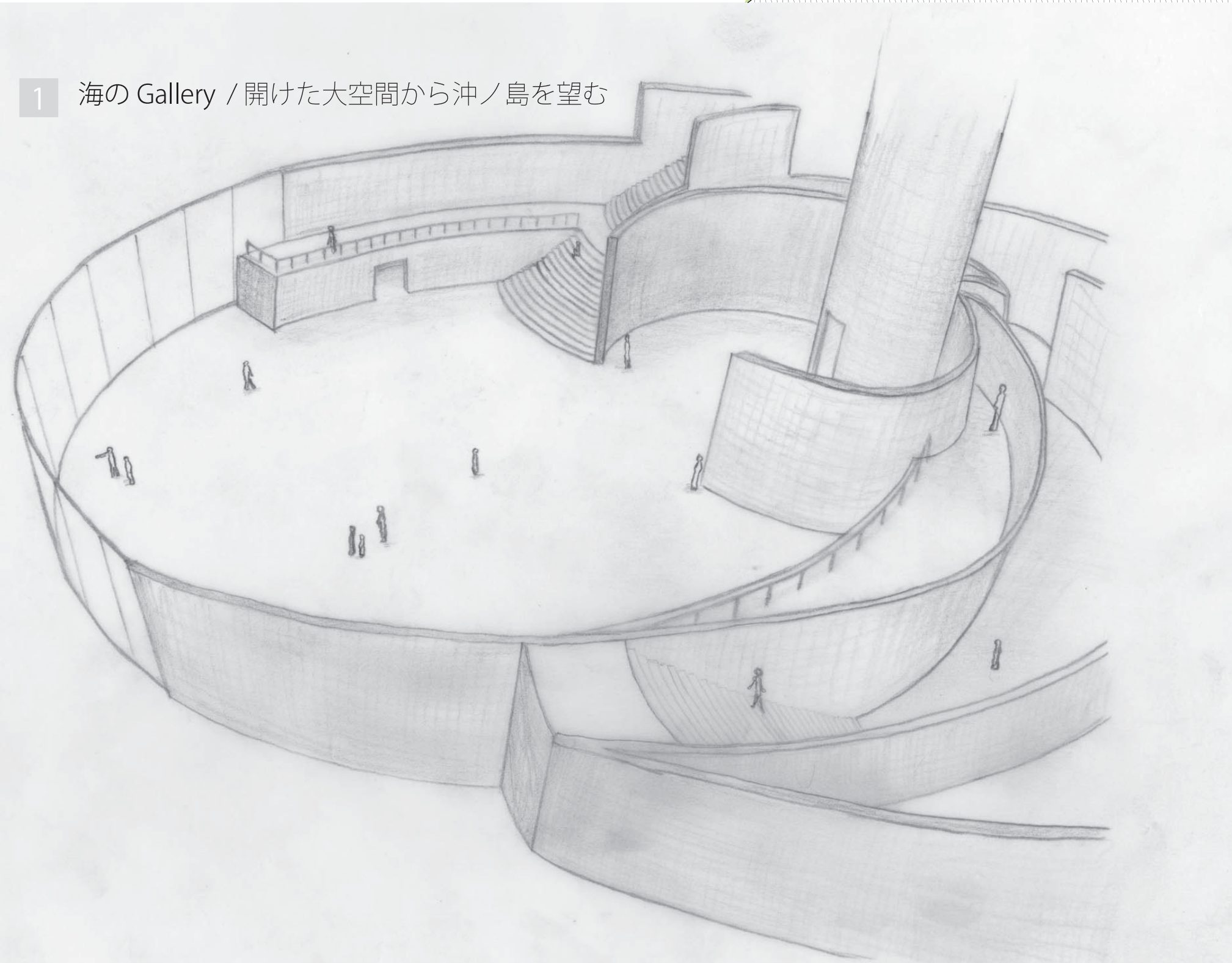


ここでは複数の円弧で構成された資料館。高さ 2.5m の入り口をくぐり、Gallery で沖ノ島の歴史を知る。下まで降りると高さ 6m の Gallery に到達する。そしてその先には、地上と繋がるアトリウムが存在し、そこに光が差し込む。光(自然)を通じて神を感じる神秘的な空間である。そこを通り抜けると、沖ノ島の望める大パノラマが広がる。

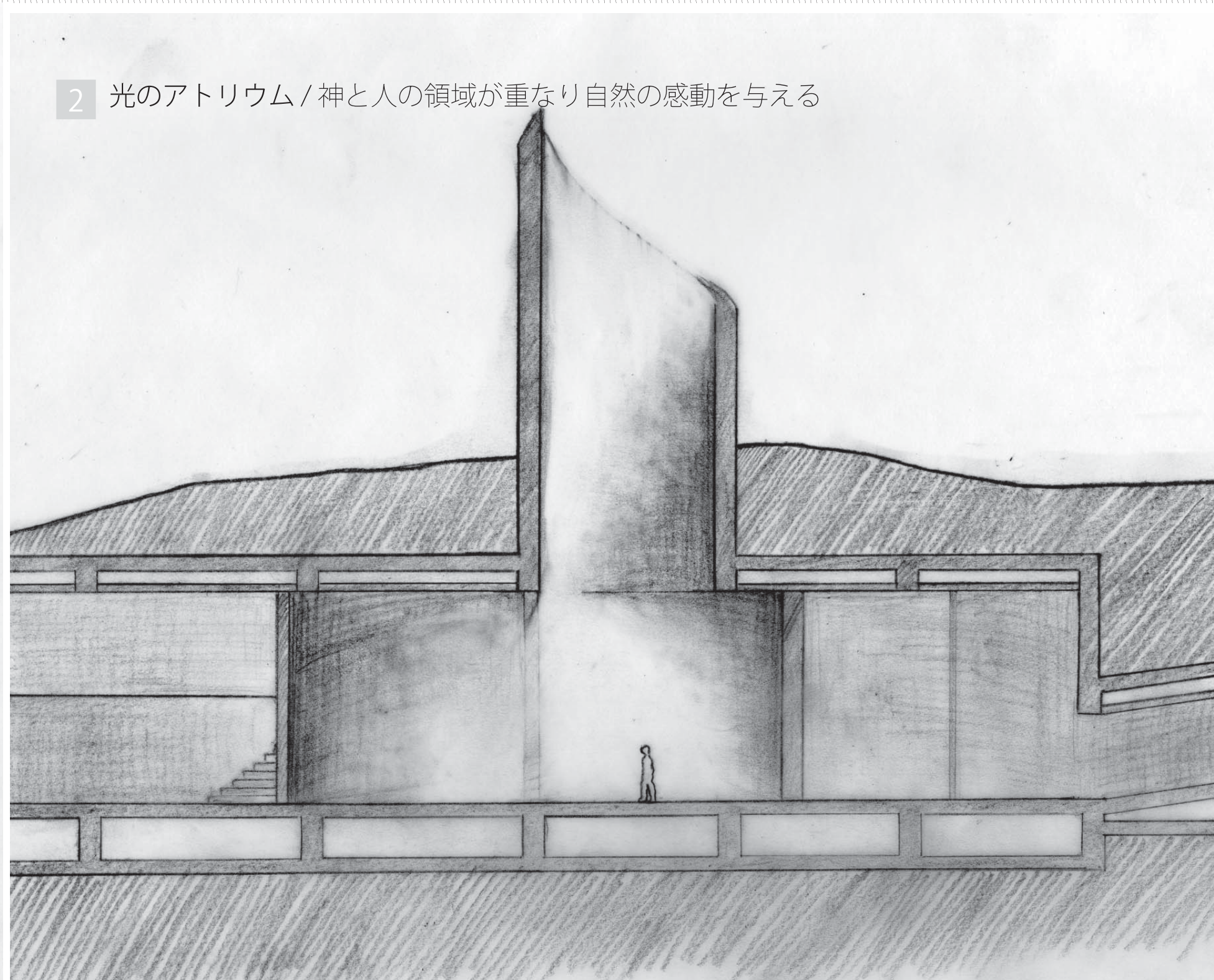
Plan (S=1/200)



1 海の Gallery / 開けた大空間から沖ノ島を望む



2 光のアトリウム / 神と人の領域が重なり自然の感動を与える



3 地の Gallery / 閉じられた空間に沖ノ島の歴史や資料を展示

